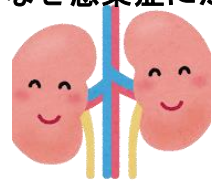




腎不全と感染症

透析患者は増加傾向にあり、現在 33 万人にも及びます。維持透析患者の死亡原因の推移は 1983 年から心不全による死亡患者が最も多く、横ばいで推移しています。一方で、**感染症による死亡は心不全に次ぐ死亡原因の第 2 位**であり、1993 年以降、増加傾向にあります。つまり、**透析患者における感染症は生命に直結する非常に重要な合併症**と考えられます。今回、腎不全患者における感染症の特徴となぜ感染症にかかりやすいかなど、簡単にご紹介いたします。



1. なぜ腎不全では感染症にかかりやすくなるのか

腎不全による免疫不全の原因は非常に多岐にわたります。主なものでは腎機能低下により、**リンパ球**という免疫に関わる白血球の一種の数・機能が低下することで、**免疫低下**を来し感染症にかかりやすくなります。それに加えて、腎不全の原因である**高齢や糖尿病、血管の障害**そのものもリンパ球の機能を低下させます。また、腎不全に伴い、**体に老廃物が蓄積される**ことも免疫を低下させると考えられています。

2. 腎不全ではどのステージから感染のリスクがあがるのか

これまでの報告では 65 歳以上の**腎不全患者の入院はどのステージでも約 3 倍の頻度**となるとされており、その原因の第 2 位が感染症 (21%) でした。感染症の中でも特に血流感染、肺炎では腎不全が進むにつれて入院および死亡のリスクが上がっていきとされています。特に年齢の影響が少ない 18-64 歳では、そのリスクは顕著とされています。腎不全における入院および死亡リスクは腎不全の重症度とほぼ同等と考えられます。

3. 腎不全・透析患者の注意すべき感染症

腎不全・透析患者で**注意すべき感染症**として、**肺炎、菌血症、結核インフルエンザ**などがあります。これらは腎不全のない患者と比べて発症頻度が高いとともに死亡リスクも上昇します。



【最後に】

腎不全・透析患者における感染症に関して簡単にではありますがご紹介させていただきました。腎不全・透析患者では免疫が低下している状態であるため、さまざまな感染症のリスクがあります。現状では、**ワクチン等で予防できるものは積極的に予防することが大切**です。ひとたび感染症が発症した際には**早期発見・治療が大切**になります。

J-SIPHE ってなあに？



当院は 2023 年より J-SIPHE に加入しました。

J-SIPHE (ジェイ サイフ) とは AMR 臨床リファレンスセンターが運用・管理するシステムで、2024 年 6 月 3 日時点で、全国の 3061 施設が加入しています。

「全国の施設における感染症診療状況、感染対策への取り組みや構造、医療関連感染の発生状況、主要な細菌や薬剤耐性菌の発生状況及びそれらによる血流感染の発生状況、抗菌薬の使用状況等に関する情報を集約させ、さらに、それらを参加施設や参加施設の地域等が活用していくことを目的とするものです。また、データの集約による日本の National data base の構築としての役割も担っています。」 ……J-SIPHE ホームページより

J-SIPHE 加入により、

- ・ EF ファイルの取り込みによる抗菌薬の使用状況の集計、グラフ化
- ・ 作成したグループ内でのデータ共有、比較など

} 可能となりました。

例)R5 年度 AUD 推移

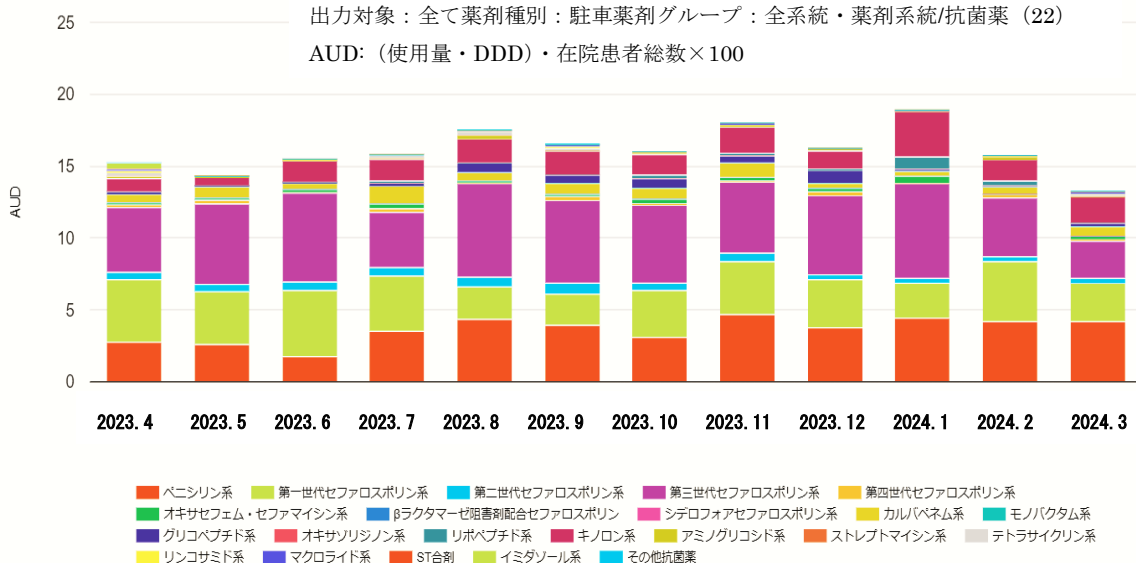
抗菌薬使用状況の推移

期間：2023.4~2024.3

表示対象：自施設 表示単位：AUD

出力対象：全て薬剤種別：駐車薬剤グループ：全系統・薬剤系統/抗菌薬 (22)

AUD: (使用量・DDD)・在院患者総数×100



今後、J-SIPHE を活用して抗菌薬適正使用の推進や他施設との連携などへの活用が期待されます。

【記：薬剤部 北川 秀人】

金沢医科大学氷見市民病院 ICT 発行